

令和7年7月31日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病害虫防除室 直通：257-6972
--

令和7年度病害虫発生予報第5号について

今後 発生が予想される水稻、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 8月上旬～8月下旬

2 予報内容

(1) 水稻

紋枯病の発生は多と予想される。防除を実施していないほ場では、発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は多と予想される。高温乾燥時には水田への侵入が促進されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第3号（令和7年7月31日付）参照】

(2) 大豆

ハダニ類の発生は多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

カメムシ類の発生はやや多と予想される。幼莢期から子実肥大期に必ず防除を実施する。

アブラムシ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

(3) 果樹

ハダニ類の発生は多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。発生源となる下草を刈り取った後、防除する。

ナシ黒星病の発生はやや多と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

カキ炭疽病の発生はやや多と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

カメムシ類の発生はやや多と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内の侵入に十分注意する。

(4) 野菜・花き

軟腐病の発生はやや多と予想される。作業中は作物を傷つけないよう注意するとともに、害虫防除を徹底する。またネギ類は高温時の作業を避け、灌水をしないこと。

ネギ黒斑病の発生はやや多と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生は多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

オオタバコガの発生は多と予想される。若齢期の幼虫の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類の発生はやや多と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

※病害虫防除実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。